

# 窓

— 同窓会だより —

No. 89

(平成 22. 3. 2 刊)

富山県立魚津高等学校同窓会

〒937-0041 富山県魚津市吉島945番地

TEL (0765) 22-0221

FAX (0765) 22-9970

同窓会ホームページ

<http://www.nice-tv.jp/~gyokou/index.html>

魚津高校ホームページ

<http://www.uozu-h.tym.ed.jp/>

障害のある子どもの教育から、社会教育を含む生涯学習と文化財に関する教育行政に携わり一年九ヶ月過ぎた。後もう少しで退職である。今まで、学校の他、総合教育センターや県教育委員会指導課の教育行政の勤務は十年近くあるが、学校教育がほとんどであった。今、学校教育を離れた場からちよつぱり眺めることができる。

十数年前、大江健三郎の「静かな生活」という本を読んだ。まだノーベル賞をもらっていない、自閉症の子どもがいることが知れわたっていないころである。なんとなくま

く自閉症のことを書いていたのだろう、ひよつとして大江氏の家族に、と思った。子どもは音に敏感でいつも雑踏の中で耳を押さえ、鳥の声に反応し奇声を上げ、人の家に勝手に入ったり、迷子になったりする子である。決して静かな子ではないが、家族全員で静かに子どもを見つめ大切に育てている内容であり、叙情的な文章であった。

その後、「自分の木の下で」の本が出された。「なぜ子どもが学校に行かねばならないのか」の項の中で、「光(子どもの名前)は一年遅れて特殊学級に入ったが、いつも耳を両手でふさいで身を硬くしているのを見て、どうして学校に行かねばならないのか」と



## 静かな学校生活

山本 なつみ



自問したという。学校に行かせないで、家で母親と音楽を聴いたり、絵を描いたりしている方が良いのではと。この「どうして」という難しい問題を解いたのは自閉症の子どもであった。自分と同じような大きな音や騒音の嫌いな友を見つけ、自分より運動機能の弱い子の世話をし、鳥の歌より人間の作った音楽が自分にはさらに分かる言葉であることに気がついたとのこと。大江の答えは、「自分をしっかりと理解し、社会につながっていくための言葉を習うために学校に行くのだ」と思ったと

ことが大切と思う。家庭では子どもは、個性のあるオンリーワンは当たり前であり、その子らしさを見つけ大事に育てることである。個性・個性と口に出して自己主張・自己弁護する子を育てることではない。個性は他人から見ると個性のある子であるはずだ。今、学校や家庭とは何かを静かに自らで考えることが必要であり、こうあるべきと答えを一つにするための議論すべきことではない気がする。学校は、子ども・教師がいよいよと学び・教え・活動する場であり、家庭は心休まる生活の場である方がよい。

ある。

「学校教育とは」という言い方は大げさであるが、大江健三郎の言葉に教育の真髄がある気がする。子ども自身が学校という場で、友を作り、弱い子を労わり、自分を知り、社会で必要なコミュニケーション能力、考える力を身につけることである。障害のあるなしは関係ない。学校のことには学校に任せればよい。教育内容にしろ、教員の資質にしろ、許容範囲を持つべきだ。また、「家庭教育とは」も一概にいないが、家庭は静かな生活の場である

自由だと思った。もう一つは、また、わら屋根が残る家々の曲がりくねった裏道で、小川のせせらぎがいつも聞こえる通学路であった。私にとつての「哲学の道」であった。考えることの重要性を学んだ。魚津高校の校風には、自由な思考がある。いい学校である。

(富山県教育委員会生涯学習室長)  
魚高二十回卒

# 創立110周年記念式典

創立110周年記念式典・記念講演が10月2日(土)13時から魚津高校体育館で、生徒・職員・同窓生・来賓など約900名の出席のもと、盛大に挙行された。

魚津高校放送部2年小中結衣さんの司会進行で、筒井慎一校長の式辞、中尾哲雄同窓会長の挨拶のあと、村井和富山県教育委員会委員長、澤崎義敬魚津市長のご祝辞を受けた。

千田則行記念事業実行委員長による記念事業目録贈呈があり、高岸奈々子生徒会長が「喜びの言葉」を述べ、100周年記念青春讃歌「生命の讃歌」を生徒一同が合唱し、全員で魚津高校校歌を斉唱し閉式となった。

会場は厳粛な空気に包まれ、出席者一同110年という歴史の重みを肌で感じた。生徒は、世代を超えた多くの先輩方とこの節目をお祝いできた感動を校歌に込めた。

記念講演は「夢を求めて」のテーマで同窓会長の中尾哲雄氏、卒業生の小林知代氏(ワシントンコア代表取締役、ワシントンDC在住、魚高31回卒)、3年生の伍島和成、立塚夢子さんの4名によるパネルディスカッションが行われた。中尾会長から、「紅の心を持つて、悩みながら、遙かなる夢を追いかける。新しいことに挑戦し続ける。そのプロセスが素晴らしい。それが本当の意味での生きること。魚津高校に心の根つ子をおいて、大きく羽ばたいてほしい。」と熱いメッセージを頂いた。



生徒会長 高岸奈々子さん

記念祝賀会は午後6時から、グランミラージュで開かれ、約120名が参加した。飛び入りで魚女の橋本国子さんの日本舞踊などもあり、終始なごやかな雰囲気包まれた。魚中、魚女、魚実、魚高の校歌を高らかに斉唱し、全員で「ふるさと」を歌い、千田実行委員長の万歳三唱の後、閉会となった。

## 創立110周年記念に思う

同窓会副会長 山本 芙紀子

今年が初秋から新型インフルエンザが断続的に流行し、110周年記念事業では公演会が中止となりとても残念でした。

それでもワシントンDCから小林知代さんをお迎えして、生徒2人と中尾会長との4人のパネルディスカッションでは、世代を超えた魚高生力ラーを懐かしく感じました。

小林さんの真つ直ぐな生き方と、全身から漲るパワーに勇気付けられました。

この記念事業にいたるまで、平成18年には魚津高女の校門移設やヒマラヤ杉百周年記念があり、昨年は蜃気楼旋風50周年と、母校の長い歴史に刻まれた、多くの卒業生の姿を髣髴とさせる事業が続きました。脈々と受け継がれる伝統に、あらためて深い誇りを感じます。

伝統とは人のつながり、思いのつながりであると思います。

教育改革の名の下、政治的な視点から様々な改革が進行し、学校教育も否応無く社会の変化にさらされていますが、こうした時期こそ、ゆるぎない伝統を守り、生徒一人ひとりが、たとえ小さくとも自分なりの夢を見つけ、社会の一隅を照らすような人材に育つよう心から期待しております。(魚高二十五回卒)

## 世紀を超えて

前期生徒会長2年 高岸 奈々子

110周年と聞いてすぐにイメージできるだろうか。長寿のギネス記録でさえ120歳なのだから、魚津高校の110年間の歴史をすべて見届けてきた人は誰一人としていないだろう。そんな中でも現在魚津高校の伝統が脈々と息づいているのは大変誇らしいことである。

そもそも「魚津高校の伝統」とは何か。約1年半ここで過ごした私が考えるものは、やはり「紅魂」だ。進学校であるので、もちろん勉強とは日々真剣に向き合う。また、行事ではリーダーシップを発揮して盛り上げ、部活動では常に上を目指して練習に励む。それだけではない。一人一人は高い学力と志を持ち、社会的。しかし行事や部活となれば集結し、受験でさえも一致団結して乗り越えていく。

私はそんな幾多の面を持つ魚高生が大好きだ。110周年記念式典では、同窓会長の中尾さん、小林さんなど魚高生の典型ともいえるべき偉大な先輩方と出会うことができた。どの方にも共通して熱いものを感じた。

110周年との出会いや巡り合わせに感謝し、これからも我々魚高生は熱い「紅魂」と誇りを胸により高みを目指して進化していきましょう。

## 記念講演 「夢を求めて」

パネルディスカッション

母校のパネルディスカッションに参加して

小林 知代

このたびは魚津高校110周年記念行事に参加させていただき、ありがとうございました。私にとって、今回の講演は刺激的なできごとであり、パネリスト、先生方、来賓の方々、そして魚津高校を応援してくださるみなさまと触れ合うことでエネルギーをいただく機会となりました。米国ワシントンDCに戻り、米国の友人や同僚に母校で話をする機会に恵まれたことを話すと、それは非常に名誉なことであり、何かすばらしい賞を得たように喜んでくれました。



左から中尾会長、立塚さん、伍島くん、小林さん

アメリカに住む年月が長くなればなるほど、日本人であることが自分の中でどっしり重きを占めていることに気づき始めました。魚津市に生まれ、魚津高校を卒業した、という自覚が故郷を思う心になり、「ああ、私の魚津私の母校」と愛着と感謝の入り混じる気持ちがあふれ出てくるのです。

日本人にとって今世界で活躍する時代が待っています。魚高の生徒のみならず、米国の詩人口バートフロストの言葉を送りたいです。「森の中で道が二つに分かれていた。そして私は人があまり通っていない道を選んだ。」自分でやりたいこと、自分の幸せを意識してみつけてください。きっとあなただけの道があるはず。

あるはず。魚津から世界へ。世界から魚津へ。いつしよに道を切り拓いて行きませんか。(ワシントンコア代表取締役・魚高三十一回卒)

3年 伍島 和成

魚津高校創立110周年記念式典のパネルディスカッションに参加できたことは、僕にとって光栄の極みであり、人生最大の貴重な経験となりました。

初めはとて緊張していましたが、当日の打ち合わせで初めて中尾哲雄さん、小林知代さんのお二人にお会いし、その穏やかな笑顔を見て、心が落ち着きました。全校生徒の前で素直に自分の気持ちを話すことが出来たのも、お二人のご厚意あってこそでした。

僕が討論で特に心を動かされたのは「命の存在・友人の存在、こういった身近で当たり前と思えることこそ、自分の夢と向き合う上で必要不可欠だ。」という中尾さんの言葉です。前ばかりではなく、周りがある何げないものにも目を向けることの大切さに気付くことができました。

母校の先輩であるお二人から学ばせていただいた事を胸に刻み込み、これからの人生を夢に向かって邁進していきたく思います。

3年 立塚 夢子

「夢を求めて」というテーマ通り、今まさに奮闘中の私にとって大先輩である中尾さん、小林さんが情熱的に夢を語る姿はとてもまぶしく、では私も自分の夢を叶えるにはどうしたら良いのか、ということを考えさせられました。将来について悩むことも多く不安になることもありますが、自分の夢を夢で終わらせない為に今、私に何ができるのかを積極的に見つけて行動し、お二人のようになれるように前進していきたいです。

## 記念事業

同窓会名簿発行

「さらさら星霜をかきねて」110周年記念誌1の発行

「蜃窓」(合冊版発行)

校歌額 揮毫 江幡春濤

記念植樹 三月一日(月) 前庭

# 平成21年度 同窓会のつどい

8月14日(金)、ホテルグランミラージュにおいて、平成21年度総会・音楽会・懇親会が開催された。

総会では、生駒副会長が議長を務め、滞りなく議事が進行し、承認された。

今年度は講演会に替わり、中国の伝統楽器「二胡」の演奏会を行った。

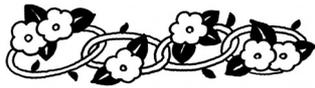
プログラムには、中国の古典曲の他に「涙そうそう」「地上の星」など日本の名曲もあり、悠久の調べに会場はしんとして聞き入った。また、中尾会長が「ふるさと」を、生駒副会長が、自身が作詞した「蜃気楼恋唄」を、

二胡の演奏に合わせて熱唱され、会場を盛り上げた。最後に「魚津高校校歌」が演奏され、その美しい調べに母校校歌への思いを新たに

した。

懇親会には約120名の参加があった。長年、入善魚中会の運営に尽力された屋木事務局長が、祝辞の中で、29年の長い歴史に幕を下ろすこととなったいきさつや、閉会を惜しむ胸の内を語られた。

最後に恒例の校歌を歌い、小杉副会長の音頭で万歳を三唱し、盛会のうちにお開きとなった。



二胡の説明をする張 鶴さんと司会の片岡さん

# 盛大だった 第15回東京魚高会



東京魚高会副会長  
芳尾孝治

第15回東京魚高会は平成21年11月15日東京・新宿の三井クラブで午後1時から魚中44回(昭和20年卒)から魚高26回(昭和49年卒)までの103名が出席して行われた。これまで隔年に行われていたが、諸般の事情で2年ぶりの同窓会となった。

司会は漁郡司さん(22回生)の名調子で進められ同窓生物故者へ黙祷のあと、長谷川政一

会長(6回生)が挨拶。続いて総会議事を満場一致で承認、懇親会に移った。

何はなくても郷土のかまぼこにまず寿司。まずは口に運び、舌鼓を打つ姿はい

つもおなじみの光景だ。

列車ダイヤの遅れで登壇した来賓の筒井慎一学校長は「元氣な同窓生の皆さんがかくも大勢参集され、在校生はもとより教職員にとつても励みとなります」と魚津高校生の現状を

まじえ熟っぽく挨拶した。会場では幾重にも話の輪ができ、午後4時のお開きまで談笑はつ

つぎることなく続いた。現役とOBの万歳三唱、エールの交換は再会を約束したかのよう

に熱気に包まれていた。



(魚高七回卒)

# 近畿地区魚高会



奈良魚高会会長  
谷川拓至

第3回近畿地区魚高会秋の交流・懇親会が、10月25日奈良市で開催されました。近畿地区に在住の魚津高校同窓生の集いとして、2年毎に各府県が輪番で担当しています。幸い晴天に恵まれ、日本を代表する神社仏閣を有する奈良公園付近を散策しました。ガイド付きで、普通組と健脚組の2組に分かれ、普通組は近鉄奈良→東大寺(南大門、大仏殿、二月堂、三月堂) ↓近鉄奈良で参加者11名。健脚組は近鉄奈良→春日大社→新薬師寺→志賀直

哉旧邸 ↓近鉄奈良で参加者11名でした。

散策後の懇親会は百楽奈良店で4名が合流し、計26名が参加しました。

新村昌平奈良副会長の司会で谷川拓至奈良会長の開会挨拶後、三井信義

大阪副会長、室澤基範兵庫会長、中村忠良滋賀会長の挨拶、長井利夫奈

良副会長の音頭で乾杯。懇談後、校歌斉唱、万歳三唱で大変盛り上がり、最後は山田克昌

奈良幹事長の閉会の挨拶で終了しました。

遠く魚津の地を離れて、近畿地区で活躍の方々と交流することはとても楽しいものでし

た。



(魚高九回卒)

# 入善魚中会 解散の記



入善魚中会事務局長  
屋木 栄

入善魚中会は平成21年10月25日第30回の総会で、29年の歴史を閉じました。筒井校長、中尾同窓会長の出席のもと、会員27名が集い、物故者への黙祷、米澤会長挨拶、来賓祝辞、米寿会員祝い、母校へ記念品贈呈、経過決算報告承認、記念撮影が行われました。続く懇親会は、一年ぶりに中学時代の話題で盛り上がり、宴たけなわのなか、校歌斉唱、万歳に続き、校旗レプリカが出席者の最年長と最年少の二人により静かに降納され、会長から中尾同窓会長に返還され閉会しました。

前後しますが、8月6日母校を見学しました。校長先生の案内で参加者はすばらしい施設設備に驚きながらも、ヒマラヤ杉や講堂、プール跡近くに残った古い石垣に懐旧の情ひ

と上おりました。グラウンドでは北側スタンド

永らく賜りましたご支援に深く感謝し、母校のますますの発展を祈って筆を擱きます。

(魚中四十七回卒)



入善魚中会は記念品として、魚津高校図書館に「図書管理システム一式」を寄贈されました。

# 新入会員

(印は同窓会連絡係)

233名(男122名 女111名)

## 理科

## 普通科

1組 林 R

2組 赤川 R

3組 五十里 R

4組 大橋 R

6組 室井 R

5組 齊藤 R

青島光春 長井廉 相川智将 増田智史 伊藤隆太 三田村亮志 稲田順也 山田雄大 今井雅貴 山手瑞季 大角拓也 上田香織 岡崎太洋 大崎千絵 岡沢佳弘 岡本真理子 開沢佳弘 荻田璃奈 亀田幸周 菊池美里 河村雄太郎 小堀勇太 坂本祥平 木澤梨那 島智大 寺崎惟代 高岡幹生 友廣純子 高瀬雄一朗 中島彩夏 高山裕次 野村なつみ 武田佳樹 浜浦めぐみ 塚田恭平 堀田遥 寺田和弘 松島理絵 新田博司 宮崎理沙 野口享嗣 山口のぞみ 富居秀晃 山下早紀 藤井周

飯田遼平 山崎宇彬 稲垣祥嗣 河田詩織 浦本詩帆 中山貴和子 大川未紗季 蜷川真美 笠井英里 橋場愛 金盛真理子 廣田泰奈 金坂美媛 廣田夏紀 國香想子 吉田麻悠 佐々木楓 吉本葵 瀧澤友梨 米田美穂 館香織 油本孝之 近藤真未 岩井亮 斎藤優貴 梅澤優太 坂爪千穂 小林智輝 佐藤麻美 谷口圭佑 寺田真帆 寺田圭斗 寺田真帆 戸倉雅斗 寺田真帆 中佑 寺松星絵 林広夢 中田美咲 平崎仁博 能登江梨香 松本卓也 林茉紀 宮津健 平田絢子 魚躬啓佑 松井一樹 内生蔵嘉行 森田優樹 吉松政史 細川さつき 浦田直樹 山岡弘明 荒居知佳 松儀みずき 小崎一記 吉川周作 岩井彬穂 三浦菜恵子 小竹浩平 吉田慎一郎 大澤綾子 湯口佳穂 込山翔 飯坂真央 大平朱音 横田香里 辻浩作 石坂真梓 大森優衣 米山葉月 長谷川翔吾 井田朝子 圃英莉

